



# 札私幼

発行

一般社団法人  
札幌市私立幼稚園連合会  
札幌市西区宮の沢1条1  
札幌市生涯学習総合センター内  
TEL011-671-3590  
FAX011-671-3591  
<http://www.s-youchien.or.jp/>  
info@s-youchien.or.jp

## 「子ども子育て新制度」説明会

平成二十六年一月二十一日に札幌ガーデンパレスにて北海道総務部学事課企画幼稚園グループ主査 猪股 由紀 様をお迎えして「子ども子育て新制度」の説明会が開催されました。



新制度施行に向けて少しでも内容を把握していただけるよう企画された説明会。たくさんの方の管理責任者及び事務担当者に御出席いただきました。



## 永 新 年 勤 交 統 礼 表 会 彰

平成二十六年一月二十一日札幌ガーデンパレスにて永年勤続表彰・新年交礼会が行われました。丸谷雄輔副会長の司会進行のもと前田元照会長から新年の挨拶と長年札幌の幼児教育に尽力されている受賞者への感謝の言葉をいただき永年勤続表彰式を行いました。（受賞者の詳細は三ページ〜五ページに掲載）しろい幼稚園園長 山田 肇 先生より受賞者代表挨拶をいただきました。



衆議院議員	町 信孝 様
衆議院議員	舟 橋 利実 様
衆議院議員	高 木 宏 壽 様
札幌市教育長	町 田 隆 敏 様
札幌市議会議長	高 橋 克 朋 様
より来賓祝辞をいただきました。	



その後、藪研究委員長より来賓紹介があり、政令指定都市私立幼稚園団体協議会会長 國府谷 俊盛 様より祝杯が行われました。



その後祝宴にて、参加されました皆様で楽しいひと時を共有いたしました。



司馬政一副会長の閉会の言葉で永年勤続者表彰・新年交礼会を終えました。

会も終わりに近づき 北海道議会議員 岩本 剛人 様により結びの乾杯が行われました。



永年勤続表彰受賞者



勤続三十年表彰(六名)

札幌北幼稚園

教諭 川畑 千代子

札幌あかしや幼稚園

職員 清水 孝志

しろいし幼稚園

園長 山田 肇

第二もなみ幼稚園

園長 伊藤 照子

インターナショナル山の手幼稚園

教諭 安江 多都子

さわらび幼稚園

教諭 小澤 陽子  
(園番号順)





勤続二十年表彰(十五名)

- ・大通幼稚園 教頭 片岡 一恵
- ・ばんけい幼稚園 教諭 尾形 玲子
- ・ばんけい幼稚園 教諭 日詰 貴之
- ・そうせい幼稚園 教諭 砂田 雪絵
- ・札幌幼稚園 教諭 佐藤 恵
- ・札幌幼稚園 副園長 加藤 道子
- ・しろいし幼稚園 教諭 兼子 寿子
- ・札幌みづほ幼稚園 教諭 後藤 美紀
- ・新さっぽろ幼稚園 教頭 須合 恵子
- ・新さっぽろ幼稚園 教諭 簀口 佳枝
- ・ふくずみ幼稚園 教諭 鬼塚 忍
- ・平ヶ岡幼稚園 副園長 進藤 律子
- ・美しが丘幼稚園 園長 鈴木 真弓
- ・光塩学園女子短期大附属幼稚園 教諭 山坂 真紀
- ・西野第二さくら幼稚園 教諭 伊藤 麻里子

(園番号順)





勤続十年表彰 (三十名)

- ・宮の森幼稚園 阿部 聖和
- ・札幌ルーテル幼稚園 木村 智香子
- ・札幌ルーテル幼稚園 佐藤 久恵
- ・新琴似幼稚園 須藤 勝磨
- ・新琴似幼稚園 長沼 俊志
- ・麻生明星幼稚園 中野 加代子
- ・つよし幼稚園 森 由香梨
- ・札幌北幼稚園 三浦 大
- ・茨戸メリー幼稚園 高橋 かよ
- ・清明幼稚園 松島 かおり
- ・清明幼稚園 遠藤 亜紀
- ・あゆみ幼稚園 後藤 明美
- ・丘珠幼稚園 會田 あいり
- ・丘珠幼稚園 笹木 雅子
- ・北都幼稚園 三上 友規子
- ・なかのしま幼稚園 朝倉 久美子
- ・なかのしま幼稚園 高木 結花
- ・なかのしま幼稚園 西岡 由花子
- ・平岸幼稚園 中山 瞳
- ・札幌ゆたか幼稚園 丸谷 雄輔
- ・西岡ふたば幼稚園 天保 聖子
- ・つきさむ幼稚園 金谷 藍
- ・札幌国際大附属幼稚園 沓澤 泰子
- ・北野しらかば幼稚園 塚田 真美子
- ・つみき幼稚園 工藤 美沙
- ・美しが丘幼稚園 知升 美由樹
- ・美しが丘幼稚園 藤原 美穂
- ・光塩学園女子短大附属幼稚園 竹田 むつみ
- ・北海道文教大学附属幼稚園 小田 進一
- ・インターナショナル山の幼稚園 島山 香

(園番号順)

※受賞者多数の為、園名・氏名のみ掲載  
 させて頂きました。  
 ※集合写真撮影にあたり前列の表彰者と  
 重なりお顔が写っていない方がいらっしゃ  
 いました。大変申し訳ございませんで  
 した。



# 園 紹 介 ア ラ カ ル ト

桑園幼稚園

報名 喜代美



二〇一三年度、桑園幼稚園は開園九十周年を迎え、たくさんの方々の関係者の方々に祝いしていただいたことに感謝しております。開園当時は園の周囲はまだまだ自然がいっぱいだった地域の姿が資料に残されていますが、今ではマンションやビルが立ち並び開発地としてすっかり様変わりしています。

そのような地域の中に、時間の流れがちよつと違うような小さな教会と幼稚園がそこにあります。変化する周囲の状況の中で、数十年変わらぬ姿なのが桑園幼稚園です。立ち寄られた方は必ず「なんだか、懐かしく感じます」とおっしゃいます。木の積み木、玄関や保育室にちようど良くあつらえた木製の靴箱や道具箱。ちよつと古ぼけて、でも大事にしている人形やぬいぐるみ。家でパソコンなどのゲーム機で遊んでいる子どもたちも、園では空き箱などの廃材や、木の実などの自然物を使った製作や、ビー玉を転がす迷路作りにも夢中です。

オリンピックのこの時期には、年長さんでは新聞記事を集めてクラスの名前を付けた「すいとびーしんぶん」という壁新聞を作っています。メダルを獲った誇らしい選手の写真や、頑張った選手の姿が貼られています。まだ競技前半だったので、「せんばん」と書かれていました。それを見ると、後半の選手の活躍が楽しみになりました。数日後には「こうはん」が貼られていました。またこの時期ホールでは、長縄跳びを満三歳児から年長児まで順番に並んで跳んでいます。三歳なのに三十回跳ぶ子、長縄に一人縄跳びを合わせて跳ぶ子、フラフープと合わせて跳ぼうとする子など、その発想にもチャレンジ精神にも頭が下がります。昨日自信なさげに見ていた子が、今日は目を輝かせて跳んでいる嬉しそうな姿に、私たち保育者も嬉しくなっています。

園内でもそれぞれの子が主体的に考え、選んだ遊びが展開されています。また季節を問わず、それぞれの時期の豊かな自然を感じながら活動できることを大切にしています。春から秋にかけての虫探しや草花との触れ合いはもちろんですが、この冬期はなんととっても雪遊びです。近隣の除雪の方々のご協力により、じつにちようどいい山を作っていたので、そり滑りを思いきり楽しむことができます。オリンピック直後はスノーボー

ドに見立てたそりの立ち乗りが流行、子どもたちもバランス良く乗りこなしています。保育者が、たらいをそりにできないかと工夫してみると、「乗ってみてあげる！」と試してみてください。豊富な雪はかまくらになったり露天風呂になったり、絵の具で着色することで三十種類のアイスクリームに変身します。絵の具を合わせているうちに、思ってもみなかった色が生まれてくるのも、驚きと発見の連続です。

札幌雪まつりは、満三歳児は市営バスで、三年保育以上の子どもたちは北七条から歩いて見学にいきました。年長さんは大通り二丁目の「ハートのお城」まで歩いたことが本人たちの自信になっています。それぞれのクラスがそれぞれのペースで楽しんできました。少々の雪はもう当たり前と思っ過ぎて過ごしている子どもたちです。



これからも園生活の中で様々な経験を重ね、心の豊かさを育んでいけるように私たち保育者は九十年の伝統を大切に守りつつ、子どもたちの育ちを支えていきたいと思っています。

本園は地下鉄南北線の「澄川駅」から徒歩五分の場所にあります。街中にあるがらも園内や園庭から藻岩山の季節の移り変わりを眺められ、広い園庭には毎日子ども達の元気な声が響き渡っています。園には四つの大きな教育・保育目標があり、それらをもとに日々、保育活動に取り組んでおります。

- ★強く↓丈夫な体と困難に打ち勝つ子ども
- ★明るく↓常に明るく、自然に親しみをもちながら音楽・芸術にも興味や関心を持つ子ども
- ★仲良く↓集団生活を通して皆で仲良く、協力し合う子ども
- ★正しく↓正しい言葉が使える、規律ある行動や秩序を守る子ども



澄川幼稚園

米永 桃子

【毎日の日課としてのなわとび】  
 上手に跳べるようになる事を重点とするのではなく、一つの事を毎日続ける大切さをねらいに行っています。日々取り組む継続活動を通して出来ない事が出来るようになる喜びを感じ、自信にもつながられるよう取り組みをしています。なわとびをほく事や、結ぶなども何度も練習を繰り返す事で自然と身につけ、私達だけでなく年長児が新しく入園して来た子に声をかけ手伝ったり、やってあげたりと微笑ましい光景も見られます。こうした何気ないやり取りも子ども達の縦の関わりとして捉えています。

【秋空の下でのマラソン】  
 二期期に入ると毎朝マラソンを取り入れています。

朝の自由遊び終了後、園庭を走ります。子ども達だけでなく職員も毎朝一緒に走り、体調を崩さず寒い冬を乗り切れるよう頑張っています！練習の成果を発揮するマラソン大会を十月に行い、年長は1km・年中は八百m・年少四百五十mを走り切ります。ここでも順位を競うのではなく最後まで走りぬく事を目標に子ども達一人ひとりが完走を目指し毎年頑張っている行事のひとつです。

この他にも季節や各学年に合わせた園外活動も多く取り入れています。年長児は一学期後半から【お習字】にも取り組み、集中してお話を聞く力を養っています。道具の名前や準備の仕方、片付け方など細かな点も気をつけながら子ども達は取り組み、幼稚園生活最後の三学期の保育参観で保護者にお見せしています。また、秋には地下鉄の駅から近い事と公共の乗り物体験として地下鉄で中島公園に落ち葉ひろいにも行きます。園バスや車での

移動が当たり前になりつつある子ども達には、地下鉄に乗って。。。この活動にとても興味や関心を持つ様子が毎年伺えます。

園の目標を踏まえ、たくさん遊び・たくさん経験や時にはぶつかり合い・遠回りをして、その中で子ども達一人ひとりが自分の持ち合わせている力を発揮し、安心して楽しく過ごせる環境作りを大切にしていきます。そして、子ども達一人ひとりの秘めた無限の可能性を私達がどれだけ引き出せるのか、初めての集団生活の中で基礎・基礎作りが大切であることを十分踏まえた上で日々子ども達と向き合っています。

園生活は子ども達だけではなく、当たり前ですが保護者との関わりも大切で忘れてはいけない事の一つとして考え、お母さんにも一緒に園に入園していただく、一緒に園生活を楽しんでほしいと言う願いもあります。そのためにも、子ども達の日々の様子を伝える際の伝え方などにも工夫をして信頼関係を十分持つ配慮を心がけております。



平成二十五年度代表者会議・予算総会

二月十八日(火)札幌ガーデンパレスにて平成二十五年度代表者会議及び予算総会が開催されました。代表者会議では、文部科学省幼児教育科専門官 相原康人様 全国認定子ども園連絡協議会事務局長 木村義恭 様による「子ども子育て支援新制度について」をテーマに対談をしていただきました。



臨時総会では、丸谷副会長の司会進行のもと、前田会長のご挨拶をいただきました。来賓からは、札幌市私立幼稚園振興議員連盟 札幌市議会議員 三上 洋右様 白井PTA会長より御挨拶をいただきました。澤田振興委員より定足数の確認が行われ出席者の中よりとさわみなみ

の幼稚園園長大嶋先生が議長に選任され議事進行となりました。

第一号議案 平成二十六年事業計画(案)について各委員会より事業計画の説明があり賛成多数で承認可決いたしました。第二号議案 平成二十六年収支予算(案)について 樺澤専務理事(事務局長)より説明があり賛成多数で承認可決いたしました。第三号議案 その他につきましては、決議事項がなく報告第一号 平成二十六年理事予定者及び役員予定者について前田会長からの報告があり全ての議事が終了いたしました。司馬副会長の閉会の言葉により平成二十五年予算総会を閉会いたしました。



# 連合会 日誌

## 編集 後特別編

### 特別編

一月二十二日(火)  
代表者会議・総務委員会・理事会  
永年勤続表彰・新年交礼会

(札幌ガーデンパレス)

二月十八日(火)

総務委員会・理事会

予算総会

(札幌ガーデンパレス)

平成二十四年度・平成二十五年度任期の  
広報委員会を担当いただきました司馬副  
会長に二年間を振り返り編集後記の特別  
編をご寄稿いただきました。

札私幼

広報委員会担当副会長 司馬政一



新しい委員の皆さんと任期中一緒に仕

事をしてきて思うことは、とにかくどの  
先生も『せっかく委員になったのだから、  
とことんやる!』という熱い方々ばかり  
だなあとということです。本来、園業務の  
他に会員の皆さんを支える仕事をすると  
いうことは、とても大変なことです。し  
かしながら、皆さんの持ち前のバイタリ  
ティーを発揮して意欲的に『読みたくな  
る広報誌』づくりに尽力いただきました。  
意欲があるからこそ、自発的に方向性を  
創造して成果を収める流れは、全くもっ  
て保育運営と大差ありません。

特に印象的だったことは、今まで新規  
採用者の宿泊研修(滝野)は、参加者の

反省を記載することに終始していました。  
しかし、実際に滝野に4日間、広報委員  
が出向いてインタビューをとり紙面に起  
こすという大変な作業を、不平不満を言  
わずに尽力いただいたことに、ただただ  
頭が下がります。もちろん色々と思案し  
ていく中で悩ましい課題や問題にスタッ  
クしてしまいうこともありましたが、二年  
の任期中に試行錯誤を繰り返していくこ  
とで現在では、一体感が生まれ充実感に  
満ちています。個人的には、このような  
素晴らしい仲間の先生方と広報誌を作っ  
ていけたことで、紙面の作成のみならず、  
保育論や保育の悩みを語れるかけがえの  
ない仲間ができることにつながり、『宝  
物』になったと強く思います。

今後任期が終わりますと、新体制の下  
でさらに新しい発想や広報誌の発行意義  
について発展的改良が行われていくこと  
と思えますが、何よりも会員の皆さんよ  
り反応があったり、実際に札私幼の役割  
を担い活躍されたりといった『協力』な  
くして、スムーズな運営はできません。  
何かに取り組むことは大変な面もありま  
すが、それだけやりがいとやっただけの  
感動があります。また、かけがえのない  
仲間も作ることができます。どうぞ、引  
き続き会員園のご支援とご理解を賜られ  
ば幸いです。

# 札私幼 コラム

毎朝玄関で子ども達を迎え、保育室へ行  
く様子を見守っておりますと、年度当初  
の姿と現在の姿では、明らかな違いが見  
えてきます。毎年のことですが、年度末  
には子ども達一人ひとりの成長がぐんと  
感じられ、大変嬉しく思うものです。最  
近特に感じるがあります。それは、  
子ども達それぞれの「後姿」が遅しくなっ  
たこと…なのです。様々な場面で見せて  
くれるとびきりの笑顔や、真剣な時や夢  
中になっている時の良い表情や姿も子ど  
もの輝きが伝わりとても素敵ですが、実  
は子どもの「背中」にも、様々な表情が  
あり頼もしさや逞しさが伝わってくるも  
のです。

「親の背を見て子は育つ」。この言葉か  
らも「背」から伝わるものが大きいこと  
がわかります。背に表れるのは、大人だ  
けではありません。子ども達だって、しっ  
かりとその時々的心情が「背」に表れて  
いるのです。日々の園生活を重ねた中で、  
先生や友達と共に様々な活動に取り組み  
色んな事に挑戦したり、一つの行事をた  
くさんの友達と一緒に思いを共感しなが  
ら楽しんだり、数々の体験を重ねてき  
た子ども達。その中で、自然に色んな力  
が育まれ、自信をつけることが出来たか  
らこそ、凛とした逞しい背中を見せてく  
れるようになったのではないのでしょうか。  
園生活の集大成として迎える卒園式では、  
一人ひとりの自信に満ちた頼もしい背中  
に、また目頭が熱くなることでしょう。

広報委員 押野 里美